

PHILIPS

サウンドバー

6100 シリーズ

TAB6100



ユーザーマニュアル

製品登録とサポートは下記まで

www.philips.com/support

目次

1 安全性に関する重要な注意事項 3

安全性	3
製品のお手入れ	5
環境への配慮	5
適合宣言	5
ヘルプとサポート	5

2 あなたのサウンドバー 6

パッケージ内容	6
サウンドバー	6
コネクタ	7
ワイヤレスサブウーファー	8
リモコン	8
リモコンの準備	9
取り付け	10
壁面取り付け	10

3 接続 11

HDMI eARC への接続	11
光学系への接続	12
オーディオ入力への接続	12
電源への接続	12
サブウーファーとのペアリング	13

4 サウンドバーの使用 14

アプリのダウンロード	14
電源のオン/オフ	15
モードの選択	15
音量の調整	15
イコライザー (EQ) 効果の選択	16
LED 表示のオン/オフインジケータ	16
DTS Virtual X	17
自動音量調整	17
Bluetooth機器での再生	17
外部機器での再生	18

USB を使用したオーディオの再生	18
工場出荷時の状態にリセットする	19

5 製品仕様 20

6 トラブルシューティング 21

7 商標 23

1 安全性に関する重要な注意事項

製品を使用する前に、すべての指示を読んで把握しておいてください。損傷が発生しても、指示に従わなかったことが原因の場合、保証は適用されません。

安全性

安全記号について把握する

マーキング情報は、製品の下部または背面にあります。

	注意 感電の危険があります 開けないでください	
注意：感電の危険を減らすため、カバー（または背面）は絶対に取り外さないでください。内部にはユーザーが修理できる部品はありません。修理は資格を持つサービス担当者に依頼してください。		



これは二重絶縁を備えたクラス II 装置です。ただし保護接地は備えていません。



AC 電圧



この記号は DC 電圧を示します。



ユーザーマニュアルの指示に従ってください。



警告
警告：感電の危険があります。



エクスクラメーションマーク (!) は、重要な操作上の指示があることをユーザーに警告することを意図しています。

感電や火災の危険

- 接続を確認または変更する前に、すべての機器を電源コンセントから外しておいてください。
- 本製品および付属品を雨や水にさらさないでください。液体が入った容器（花瓶など）を本製品の近くに置かないでください。液体が本製品の上にこぼれたり内部に入ったりした場合は、直ちに電源コンセントを抜いてください。本製品の使用前に点検を受けるには、お客様情報センターにお問い合わせください。
- 本製品および付属品は、裸火などの熱源（直射日光を含む）の近くに置かないでください。
- 本製品の換気口などの開口部に物を挿入しないでください。
- 主電源プラグまたは電源接続器を切断装置として使用する場合は、切断装置をすぐに操作できる状態にしておいてください。
- 電池（取り付けた電池パックまたは電池）は、直射日光や炎などの高温になる熱にさらさないでください。
- 雷が発生しそうな場合は、その前に、本製品の電源コードをコンセントから抜いてください。
- 電源コードを抜くときには、必ずプラグを掴んで引いてください。ケーブルは絶対に引っ張らないでください。
- 本製品は熱帯または温帯の地域で使用してください。

ショートや火災の危険

- 識別番号および電源供給定格については、製品の背面または底面にある型式プレートを参照してください。
- 本製品を電源コンセントに接続する前に、電源電圧が製品の背面または底面に印刷されている値と一致しているようにしてください。電圧が異なる場合は、本製品を電源コンセントに接続しないでください。

怪我や本製品損傷の危険

- 本製品を壁面に取り付ける場合は、設置についての指示に従って壁にしっかりと固定してください。付属の壁面取り付けブラケットのみを使用してください（ある場合）。壁面取り付けが不適切だと、事故、負傷、または損傷が発生することがあります。ご不明な点は、お住まいの国のお客様情報センターまでお問い合わせください。
- 本製品や物を電源コードの上、または他の電気機器の上に置かないでください。
- 本製品が 5°C 未満の気温で輸送されてきた場合は、製品を開梱して製品が室温と同じ温度になるのを待ってから電源コンセントに接続してください。
- 本製品にはガラス製の部品が使用されている場合があります。負傷や損傷を防ぐため、十分注意して取り扱ってください。

オーバーヒートの危険

- 本製品は絶対に閉鎖空間内に設置しないでください。製品の周囲には 10 cm（4 インチ）以上の隙間を空けておき、換気ができるようにしてください。カーテンなどの物によって本製品の換気スロットが覆われることがないようにしてください。

電池の使用に関する注意

- 注意：正しくない電池交換をした場合には、爆発の危険があります。同じまたは同等のタイプの電池と交換してください。
- 電池が消耗している場合、またはリモコンを長時間使用しない場合は、電池を取り外してください。
- 電池には化学物質が含まれています。リサイクルまたは廃棄については、国や地域のガイドラインに従ってください。
- 装置に記されている「+」および「-」のマークに従って、すべての電池を正しく取り付けてください。

- 古い電池と新しい電池を混ぜて使用しないでください。
- アルカリ電池、標準電池（カーボン亜鉛電池）、または充電式電池（Ni-Cd、Ni-MH など）を混ぜて使用しないでください。
- 電池（電池または電池パック）は、直射日光や炎などの高温になる熱にさらさないでください。
- 電池を廃棄するときには、燃やしたり焼却炉で処理したり、機械的に潰したり切断したりしないでください。
- 電池を極端に低い気圧下で管理しないようにしてください。

注

- 定格ラベルは、機器の底面または背面に貼り付けられています。

製品のお手入れ

本製品のクリーニングにはマイクロファイバークロスのみを使用してください。

環境への配慮

古くなった製品や電池の廃棄



本製品は、リサイクルと再利用が可能な高品質の素材とコンポーネントを使用して設計および製造されています。



製品のこの記号は、製品が欧州指令 2012/19/EU の対象となっていることを意味します。



この記号は、本製品に欧州指令 2013/56/EU の対象となる電池が含まれており、通常のごみと一緒に廃棄できないことを意味します。

電気／電子製品および電池の廃棄については、地域の分別収集システムを把握しておいてください。地域の規則に従い、本製品や電池を通常のごみと一緒に廃棄しないでください。古い製品や電池の廃棄が適切であれば、環境や人の健康に悪影響を及ぼすことがなくなります。

使い捨て電池の取り外し

使い捨て電池を取り外すには、電池の取り付けに関するセクションを参照してください。

適合宣言

本製品は、欧州共同体（EC）の無線干渉要件に準拠しています。

これにより、TP Vision Europe B.V. は、製品が RED 指令 2014/53 / EU および英国無線機器規則 SI 2017 No 1206 の必須要件およびその他の関連規定に準拠していることを宣言します。適合宣言は www.philips.com/support にあります。

ヘルプとサポート

www.philips.com/support にアクセスすると、次のような広範なオンラインサポートを受けることができます。

- ユーザーマニュアルとクイックスタートガイドをダウンロードする
- ビデオチュートリアルを視聴する（一部のモデルのみについて提供）
- よくある質問（FAQ）から回答を探す
- 質問をメールで送信する
- サポート担当者とチャットする

Web サイトの指示に従って言語を選択し、製品のモデル番号を入力します。

お住まいの国のお客様情報センターにお問い合わせいただくこともできます。お問い合わせいただく前に、製品のモデル番号とシリアル番号を書き留めておいてください。この情報は製品の背面または底面にあります。

2 あなたのサウンドバー

フィリップス製品をご購入いただきありがとうございます。フィリップスが提供するサポートを最大限に活用していただくために、ご購入のサウンドバーを以下でご登録ください。

www.philips.com/support

パッケージ内容

次の品目がパッケージに入っていることを確認してください。

- サウンドバー x 1
- ワイヤレスサブウーファー x 1
- リモコン x 1
(単4形電池×2)
- 電源コード (バーおよびサブウーファー用) * x 2
- 壁面取り付けキット x 1
(ブラケット×2/ブラケットネジ×4/
ガムカバー×4)
- クイックスタートガイド/保証書/安全シート x 1



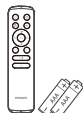
サウンドバー



壁掛けキット
(ブラケット×2/ブラケットネジ×4/
ガムカバー×4)



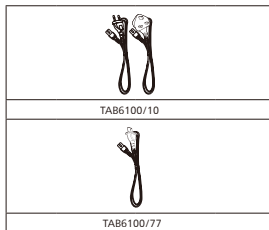
ワイヤレスサブウーファー



リモコン(単3電池×2)



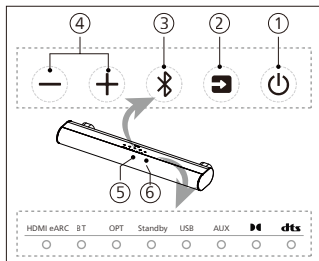
クイックスタートガイド
保証書・安全シート



- 電源コードの数とプラグのタイプは地域によって異なります。
- 本ユーザーマニュアルに記載されている画像および図は、あくまで参考であり、実際の製品の外観は異なる場合があります。

サウンドバー

このセクションでは、サウンドバーの概要について説明します。



① 電源 (スタンバイ - オン)

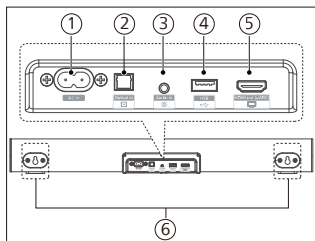
- サウンドバーの電源をオンにするか、スタンバイ状態にします。
- 電源オン状態で8秒間長押しすると、自動スタンバイ (15分経過後に自動的にスタンバイ状態になる) が有効または無効になります。「自動スタンバイを無効にする」オプションを選択すると、製品のエネルギー消費量が増加します。

- ② **🔊 (ソース) ボタン**
サウンドバーの入力ソースを選択します。
- ③ **🔗 (Bluetooth) ボタン**
- Bluetooth モードを選択するときに押します。
 - 3 秒間長押しすると、Bluetooth ペアリングモードになります。
 - 8 秒間長押しすると、すべての機器が切断され、BT 接続履歴リストがクリアされ、ペアリングモードになります。
- ④ **+/- (音量) ボタン**
音量の上げ下げを行います。
- ⑤ **リモコンセンサー**
- ⑥ **サウンドバーの LED インジケーター**

LED の状態	ステータス
HDMI ARC 点灯 (ホワイト)	HDMI eARC モード
HDMI eARC 2 回速く点滅	
BT 点灯 (ホワイト)	Bluetooth (クラシック) モード
OPT 点灯 (ホワイト)	光学モード
Standby 点灯 (レッド)	スタンバイモード
USB 点灯 (ホワイト)	USB モード
AUX 点灯 (ホワイト)	AUX モード
🔊 点灯 (ホワイト)	Dolby Audio
dtc 点灯 (ホワイト)	DTS Audio

コネクター

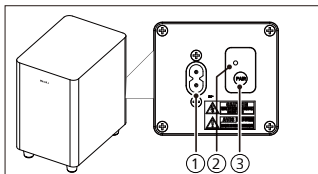
このセクションでは、サウンドバーで利用できるコネクターの概要について説明します。



- ① **AC 入力～ソケット**
電源に接続します。
- ② **Optical in (光入力)**
テレビまたはデジタル機器の光オーディオ出力に接続します。
- ③ **Audio in (オーディオ入力)**
MP3 プレーヤー (3.5 mm ジャック) などからのオーディオ入力。
- ④ **USB**
- USB ストレージデバイスを接続してオーディオメディアを再生します。
 - この製品のソフトウェアをアップグレードするためにも使用します。
- ⑤ **HDMI eARC**
ポートは eARC HDMI 機能をサポートし、テレビの HDMI (eARC) 入力に接続します。
- ⑥ **壁面ブラケットスロット**

ワイヤレスサブウーファー

このセクションでは、無線サブウーファーの概要について説明します。



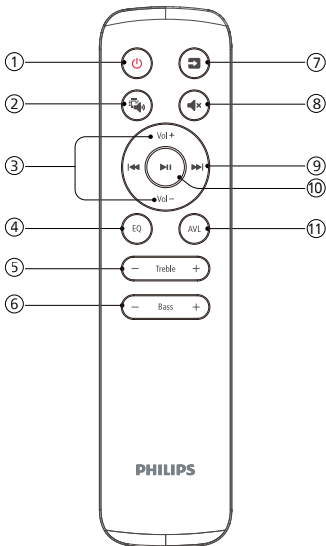
- ① AC入力～ソケット
電源に接続します。
- ② サブウーファーインジケーター
ワイヤレスサブウーファーのインジケーターに基づいてステータスを確認します。

LED の 状態	ステータス
ファスト ブリンク	サブウーファーがペアリング モードです
点灯	接続／ペアリングに成功しました
ゆっくり 点滅	ペアリングされていません

- ③ Pair (ペアリング) ボタン
長押しすると、サブウーファーのペアリングモードになります。このボタンは手動ペアリングにのみ使用されます。(ユニットの電源を [ON (オン)] にするとサウンドバーとサブウーファーは自動的にペアリングされるため、[Pair (ペアリング)] ボタンを押さないでください)

リモコン

このセクションでは、リモコンの概要について説明します。



- ① ㊤ (スタンバイオン)
 - サウンドバーの電源をオンにするか、スタンバイ状態にします。
 - 電源オン状態で8秒間長押しすると、自動スタンバイ (15分経過後に自動的にスタンバイ状態になる) が有効または無効になります。
- ② ㊤ (インテリサウンドコントロール)
AI / プリセット / カスタムモードの切り替え
- ③ Vol +/Vol - (音量+ / 音量-) (サウンドバーの音量)
サウンドバーの音量を調節します。

- ④ EQ
 - イコライザー（EQ）効果を選択します。
- ⑤ Treble +/-（トレブル+/-）

高音レベルを調整します。
- ⑥ Bass +/-（低音+/-）（サブウーファースの音量）

サブウーファースの音量を調整します。
- ⑦ （ソース）

ボタンを押して、サウンドバーの入力ソースを選択します。
- ⑧ （ミュート）

ミュートまたは音量を復元します。
- ⑨ （前へ/次へ）

USB / BT モードで前または次のトラックにスキップします。
- ⑩ （再生/一時停止）

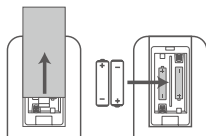
USB / BT モードで再生を開始、一時停止、または再開します。
- ⑪ AVL

自動音量調節のオン/オフおよび夜間モード。

リモコンの準備

- 付属のリモコンを使用すると、離れた場所からでもユニットを操作できます。
- 有効範囲の 6 m（19.7 フィート）以内でリモコンを操作していても、ユニットとリモコンの間に障害物がある場合には、リモコンの操作ができなくなることがあります。
- 赤外線が発生する他の製品の近くでリモコンを操作している場合、または赤外線を使用した他のリモコン装置がユニットの近くで使用されている場合には、リモコンが正しく動作しないことがあります。逆に、他の製品側が正しく動作しないことがあります。

リモコンの電池交換



- 1 背面カバーを押した状態でスライドさせ、リモコンの電池収納部を開きます。
- 2 単 4 形電池 2 本（付属）を入れます。電池の「+」側と「-」側が、電池収納部に表示されている「+」側と「-」側に一致していることを確認します。
- 3 電池収納部のカバーを閉じます。

電池に関する注意事項

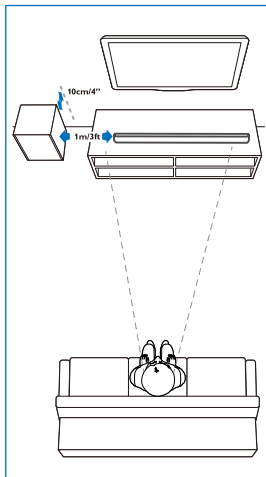
- 電池は、正の「⊕」と負の「⊖」の極性が正しい状態で挿入してください。
- 同じタイプの電池を使用してください。タイプの異なる電池を一緒に使用しないでください。
- 充電式電池パックと非充電式電池パックのどちらも使用できます。ラベルの注意事項を参照してください。
- 電池カバーと電池を取り外すときには、爪を痛めないように注意してください。
- リモコンを落とさないでください。
- リモコンに何らかの衝撃が加わらないようにしてください。
- リモコンの上に水や液体をこぼさないでください。
- リモコンを濡れている物の上に置かないでください。
- リモコンは直射日光の当たる場所や、高温になる熱源の近くに置かないでください。

- ・ リモコンを長期間使用しない場合は、腐食や電池の液漏れが発生し、怪我、物的損傷、火災などの原因となる可能性があるため、本体から電池を取り出しておいてください。
- ・ 指定されたものの以外の電池は使用しないでください。
- ・ 新しい電池を古い電池と一緒に使用しないでください。
- ・ 充電式であることが確認できない電池は、絶対に充電しないでください。

取り付け

サブウーファーは、サウンドバーから少なくとも 1 m (3 フィート)、壁からは 10 cm 離して設置します。

最適な音響効果を得るには、下の図のようにサブウーファーを配置します。



壁面取り付け

注

- ・ 壁面取り付けが不適切だと、事故、負傷、または損傷が発生することがあります。ご不明な点は、お住まいの国のお客様情報センターまでお問い合わせください。
- ・ 壁面に取り付ける前に、壁がサウンドバーの重量を支えられることを確認してください。
- ・ 壁面に取り付ける前に、サウンドバーの底部にあるゴム製の脚を取り外す必要はありません。ゴム製の脚は取り外すと元に戻すことができません。
- ・ 壁面取り付けのタイプに応じて、適切な長さと同径のネジを使用してください。
- ・ サウンドバーの背面にある USB ポートが USB デバイスに接続されているかどうかを確認してください。接続された USB デバイスが壁面取り付けに影響を与える場合は、適切なサイズの別の USB デバイスを使用する必要があります。

ネジの長さ／直径

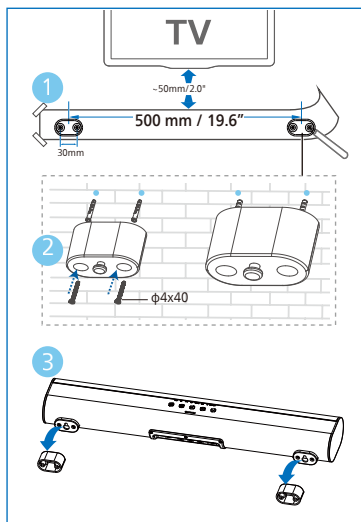
推奨の壁面取り付け高さ

サウンドバーを壁面に取り付ける前に、まずテレビを取り付けることをお勧めします。テレビが事前に設置された状態で、テレビの底面から 50 mm (2.0 インチ) 離れた壁面にサウンドバーを取り付けます。

警告

- ・ けがを防止するため、本装置は設置説明書に従って床／壁面にしっかりと固定する必要があります。
- ・ 推奨の壁面取り付け高さ：1.5 m 以下。

- 1 平行する 4 つの穴（壁のタイプに応じて直径 3 ～ 8 mm）を壁面に開けます。
 - ↳ 穴間の距離は次のとおりです。
616 mm / 18.9"
 - ↳ 壁の正しい位置にドリルで穴を開けるために、付属の壁面取り付けテンプレートを可以使用します。
- 2 ネジ（付属）とドライバー（付属していない）で壁に壁面取り付けブラケットを締め付けます。しっかりと取り付けられていることを確認します。
- 3 ユニートを壁面取り付けブラケットの位置まで持ち上げ、スロットにかみ合わせて取り付けます。



3 接続

このセクションでは、サウンドバーをテレビやその他の機器に接続してセットアップする方法について説明します。

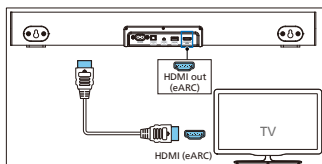
注

- 識別番号および電源供給定格については、製品の背面または底面にある型式プレートを参照してください。
- 接続を確立または変更する前に、すべての機器を電源コンセントから外しておいてください。

HDMI eARC への接続

HDMI eARC（オーディオリターンチャンネル）

サウンドバーは、eARC（オーディオリターンチャンネル）を備えた HDMI をサポートしています。お使いのテレビが HDMI eARC 対応であれば、HDMI ケーブルだけでサウンドバーからテレビ音声を再生できます。



- 1 テレビで HDMI-CEC 操作をオンにします。詳細については、テレビの取扱説明書を参照してください。
 - テレビの HDMI eARC コネクタのラベルが異なる場合があります。詳細については、テレビの取扱説明書を参照してください。

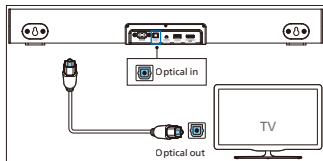
- 2 高速 HDMI ケーブルを使用して、サウンドバーの HDMI eARC コネクターをテレビの HDMI eARC コネクターに接続します。

注

- お使いのテレビが、HDMI-CEC および eARC 機能をサポートしている必要があります。HDMI-CEC と eARC は [オン] に設定する必要があります。
- HDMI-CEC と eARC の設定方法は、テレビによって異なる場合があります。eARC 機能の詳細については、テレビのユーザーマニュアルを参照してください。
- HDMI ケーブルが eARC 機能に対応していることを確認してください。

光学系への接続

- 1 光ケーブルを使用して、サウンドバーの [Optical in (光入力)] コネクターをテレビまたはその他の機器の [Optical out (光出力)] コネクターに接続します。

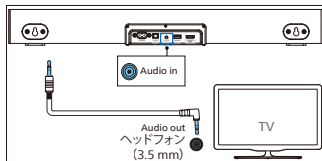


- [Spdif in (Spdif 入力)] または [Spdif out (Spdif 出力)] と表示されているデジタル光コネクターもあります。

オーディオ入力への接続

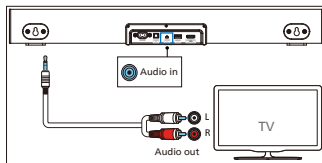
3.5mm オーディオケーブルを使用する

- 3.5 mm のオーディオケーブルを使用して、テレビのヘッドフォンソケットをサウンドバーの [Audio in (オーディオ入力)] ソケットに接続します。



3.5 mm RCA オーディオケーブルを使用する

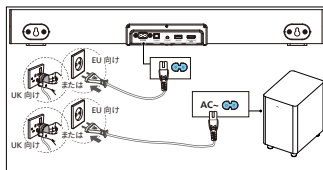
- 3.5 mm RCA オーディオケーブルを使用して、テレビのオーディオ出力ソケットをサウンドバーの [Audio in (オーディオ入力)] ソケットに接続します。



電源への接続

- AC 電源コードを接続する前に、他のすべての接続を完了しておいてください。
- 製品損傷の危険があります。電源電圧が、ユニットの背面または底面に印刷されている電圧と一致していることを確認します。

- 1 主電源ケーブルをサウンドバーの AC~ ソケットに接続し、次に主電源ソケットに接続します。
- 2 主電源ケーブルをサブウーファーの AC~ ソケットに接続し、次に主電源ソケットに接続します。



注

- 電源コードの数とプラグのタイプは地域によって異なります。

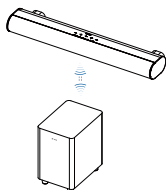
サブウーファーとのペアリング

※ ヒント

- サブウーファーは、サウンドバーから 6 m 以内のオープンな場所に設置してください。

自動ペアリング

サウンドバーとサブウーファーを主電源ソケットに接続し、ユニットまたはリモコンの  を押して、ユニットを [ON (オン)] モードに切り替えます。サブウーファーとサウンドバーが自動的にペアリングされます。



→ ワイヤレスサブウーファーのインジケーターに基づいてステータスを確認します。

LED のステータス状態

ファスト ブリンク	サブウーファーがペアリング モードです
--------------	------------------------

点灯	接続／ペアリングに成功しました
----	-----------------

ゆっくり 点滅	ペアリングされていません
------------	--------------

※ ヒント

- 手動ペアリングを実行する場合以外は、サブウーファーの背面にある [Pair (ペアリング)] ボタンを押さないでください。

手動ペアリング

ワイヤレスサブウーファーから音声聞こえない場合は、サブウーファーを手動でペアリングします。

- 1 サブウーファーとサウンドバーの両方のケーブルを主電源ソケットからいったん抜いて、3 分後に再度接続します。
- 2 サブウーファーの背面にある [Pair (ペアリング)] ボタンを 3 秒間押し続けます。
 - サブウーファーのインジケーターがすばやく点滅します。

- 3 ↳ 正常に完了すると、サブウーファアのインジケータが点灯します。
- 4 それでもインジケータが点滅し続ける場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返します。



ヒント

- サブウーファアは、サウンドバーから 6 m 以内のオープンな場所に設置してください（距離が近いほど確実に動作します）。
- サブウーファアとサウンドバーの間に物があれば取り除いてください。
- ワイヤレス接続が再度失敗する場合は、周辺に競合機器または強い干渉源（電子機器からの干渉など）がないか確認します。これらの競合機器または強力な干渉源を除去し、上記の手順を繰り返します。

4 サウンドバーの使用

このセクションでは、サウンドバーを使用して、接続された機器からオーディオを再生する方法について説明します。

作業を開始する前に

- クイックスタートガイドおよび取扱説明書に記載されている必要な接続を行います。
- サウンドバーを他の機器に合わせて正しいソースに切り替えます。

アプリのダウンロード

QR コードをスキャンするか、Apple App Store または Google Play で「Philips Entertainment」を検索して、アプリをダウンロードしてインストールします。



Philips Entertainment 🔍

Philips Entertainment アプリでは、音量レベル、サウンドスタイル (EQ)、ダイアログ拡張、サラウンドサウンド、オート、音量調節、AV 同期、LED ライト、ソース選択などを設定できます。

電源のオン／オフ

- まずサウンドバーを主電源ソケットに接続すると、ユニットはスタンバイモードになります。
- リモコンまたはサウンドバーの  ボタンを押して、サウンドバーの [ON (オン)] または [OFF (オフ)] を切り替えます。
- サウンドバーを完全にオフにする場合は、主電源ソケットから主電源プラグを外します。

自動スタンバイ

- テレビまたは外部サウンドバーの接続が失われた（または USB、BT のファンクションビット再生が一時停止した）場合、または電源がオフになった場合、約 15 分後にサウンドバーは自動的にスタンバイモードになります。
- 自動スタンバイ（15 分経過後に自動的にスタンバイ状態になる）を有効または無効にするには、電源オン状態で  ボタンを 8 秒間長押しします。

注

- HDMI (eARC) モードでは、オーディオ再生がないまま約 15 分経過すると、ネットワークスタンバイモードになります。
- AUX、USB、光学、Bluetooth モードでは、オーディオ再生がないまま約 15 分経過すると、ユニットは自動的にスタンバイモードになります。

モードの選択

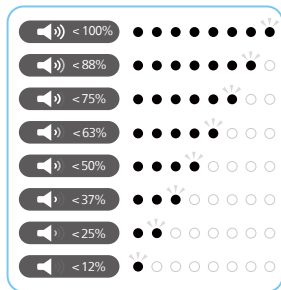
サウンドバーまたはリモコンの  (ソース) ボタンを繰り返し押して、[HDMI eARC]、[BT]、[OPT]、[USB]、[AUX] モードを選択します。

- 再生ソースを切り替えると、それに応じてフロントインジケータが点灯します。

音量の調整

サウンドバーの音量を調整する

- 音量を調整するには、[Vol+ / Vol-] (音量) を押します。
 - 音量を調整すると、インジケータの明るさが増減します。以下の図に示す対応するライトの表示 / 点滅に従って、現在の音量レベルを決定します。



- 音声をミュートにするには、 (ミュート) を押します。
- 音を戻すには、もう一度  (ミュート) を押すか、[Vol+ / Vol- (音量+ / 音量-)] または [次 / 前の曲、再生 / 一時停止] を押します。

サブウーファースの音量を調整する

- サブウーファースの音量を調整するには、[Bass +/-] (サブウーファース) を押します。

トレブルレベルの調整

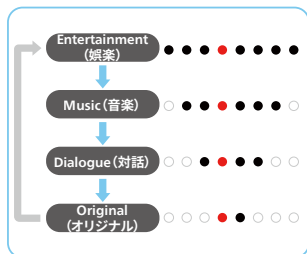
- 高周波数域 (トレブル) を調整するには、[Treble +/-] ボタンを押します。

低音／ トレブル	LED の状態
+5	●●●●●●●○
+4	○●●●●●○
+3	○●●●○●○
+2	○●●○●○
+1	○●○●○●○
0	●○●○●○●
-1	○●○●○●○
-2	○●○●○●○
-3	○●○●○●○
-4	○●○●○●○
-5	○●○●○●○

イコライザー (EQ) 効果の選択

ビデオや音楽に合わせて、あらかじめ定義されたサウンドモードを選択します。

- リモコンの [EQ] ボタンを押して、希望のプリセットされたイコライザー効果を選択します。
- [EQ] ボタンを押して、モードを切り替えます。
 - LED は 3 秒間点灯し、EQ モードの定義に従って現在の EQ モードを表示します。



LED 表示のオン／オフインジケータ

リモコンの (ミュート) ボタンを 5 秒間長押しすると、LED 表示が有効／無効になります。

- OFF (オフ): いずれかのボタンを押すと、点灯した LED は通常の状態に戻ります。LED は 10 秒間のアイドリング後に自動的に消灯します。
- ON (オン): 点灯した LED は自動的に消灯しません。



ヒント

- スタンバイ中は、LED の表示がオフに設定されているとしても、スタンバイ LED がオンになります。

DTS Virtual X

DTS Virtual:X 部屋の大きさやレイアウト、スピーカー構成に関わらず、多角的なサウンドを楽しむことができます。

DTS Virtual:X テクノロジーは、DTS 独自の仮想の高さと仮想のサラウンド処理を特徴としており、あらゆるタイプの入力ソースやスピーカー構成から臨場感あふれるサウンド体験を実現します。

アプリ経由でパーチャライザーを有効または無効にします。

ステータス	LED の状態
ON	○○○●●○○○ (← →) (中央の 2 つの LED が右/左に広がります)
OFF	●○○○○○○● (→ ←) (2 つの点灯 LED が左右から中央に移動)

- ON (オン): このモードでは、高さスピーカーを使用しない場合に、仮想高さと仮想サラウンド処理機能のある DTS Virtual:X を使用して、3 次元の音響場を実現します。
- OFF (オフ): 「DTS Virtual:X」を使用しません。

自動音量調整

[AVL] ボタンを押すと、自動音量調節の [ON (オン)] / [OFF (オフ)] または夜間モードを切り替えることができます。

ステータス	LED の状態
OFF	○○○●●○○○
ON	○○●●●●○○
NIGHT	○●●●●●●○

- OFF (オフ): 「自動音量調整」を使用しません。
- ON (オン): さまざまなソースやコンテンツのタイプにリアルタイムで反応して、音量を一定に維持します。

- NIGHT (夜間): あらゆるソースとコンテンツのタイプに対して一定の音量を維持し、音声や会話が強調されるようにして、静かなリスニング環境で聞き取りやすくなるようにします。

Bluetooth 機器での再生

Bluetooth を利用して、サウンドバーを Bluetooth 機器 (iPad、iPhone、iPod touch、Android フォン、ラップトップなど) に接続し、機器に保存されているオーディオファイルをサウンドバーのスピーカーから聴くことができます。

- 1 サウンドバーの  ボタンまたはリモコンの  (ソース) を押して、BT (Bluetooth) モードを選択します。
 - ↳ BT インジケータは 5 秒間白色に点灯し、その後ゆっくりと白色に点滅します。
- 2 Bluetooth 機器で Bluetooth をオンにし、Philips TAB6100 を検索して選択し、接続を開始します (Bluetooth を有効にする方法については、Bluetooth 機器の取扱説明書を参照してください)。
 - ↳ 接続中は、BT インジケータが白で点滅します。
- 3 サウンドバーから音声ガイドが聞こえるまで待ちます。
 - ↳ 正常に接続されると、BT インジケータは白で点灯します。
- 4 Bluetooth 機器でオーディオファイルまたは音楽を選択して再生します。
 - 再生中に通話が着信すると、音楽再生が一時停止します。通話が終了すると再生が再開します。
 - Bluetooth 機器が AVRCP プロファイルに対応している場合は、リモコンで  /  を押してトラックにスキップしたり、 を押して再生を一時停止/再開したりできます。

Bluetoothを終了するには、次のようにします。

- ユニットを別のソースに切り替えます。
- Bluetooth 機器から機能を無効にします。または、Bluetooth 機器を最大動作範囲外に置きます。音声ガイドが出された後、Bluetooth 機器がユニットから切断されます。
- サウンドバーの  ボタンを押し続けます。

注

- 障害物のないオープンな場所 サウンドバーと Bluetooth 機器の最大動作範囲は約 10 m (30 フィート) です。
- すべての Bluetooth 機器との互換性が保証されているわけではありません。
- 機器とサウンドバーの間に障害物がある場合、音楽のストリーミングが中断される場合があります。たとえば、壁、機器を覆う金属製のケース、または同じ周波数で動作する近くにある他の機器などです。

外部機器での再生

サウンドバーがテレビまたはオーディオ機器に接続されていることを確認します。

- 1 サウンドバーまたはリモコンの  (ソース) ボタンを繰り返し押して、HDMI eARC、OPT、AUX モードを選択します。
↳ サウンドバーのインジケータライトに、現在使用中のモードが表示されます。
- 2 オーディオ機器を直接操作して再生機能を有効にします。
- 3 + / - (音量) ボタンを押して、音量を希望のレベルに調整します。

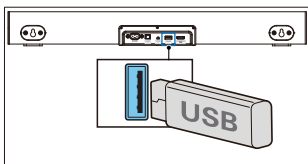
注

- 光学 / HDMI eARC モードでは、ユニットからの音声出力がないときには、ソース機器 (テレビ、DVD、Blu-ray プレーヤーなど) で PCM または Dolby Digital 信号出力を有効にすることが必要になる場合があります。

USB を使用したオーディオの再生

MP3 プレーヤーや USB フラッシュメモリなどの USB ストレージデバイスでオーディオを楽しむことができます。

- 1 USB デバイスを挿入します。



- 2 サウンドバーまたはリモコンの  (ソース) ボタンを繰り返し押して、USB モードを選択します。
- 3 再生時には次の操作ができます。

ボタン	操作
	再生の開始、一時停止、または再開
	前のトラックにスキップ
	次のトラックにスキップ

注

- 本製品は、特定のタイプの USB ストレージデバイスと互換性がない場合があります。
- USB 延長ケーブル、USB ハブ、または USB 多機能カードリーダーを使用すると、USB ストレージデバイスが認識されない場合があります。
- ファイルの読み取り中に USB ストレージデバイスを取り外さないでください。
- システムは、最大 128 GB のメモリを持つ USB デバイスをサポートできます。
- このシステムは MP3 / WAV / FLAC を再生できます。
- USB ポートのサポート: 5V ≡ 500mA。

工場出荷時の状態にリセットする

デバイスをデフォルト設定にリセットします。

- サウンドバーの電源をオンにして、+ ボタンと - ボタンを同時に 8 秒間長押しします。
 - ↳ すべての LED が 5 秒間点灯し、スタンバイ LED が赤色に点灯します。

項目	デフォルト設定
EQ	Entertainment (娯楽)
Master Volume (主音量)	10 (70 ~ 75 db SPL)
Subwoofer Volume (サブウーファー音量)	0
Treble (トレブル)	0
IntelliSound	AI
Auto Volume (自動音量)	OFF (オフ)
Night (夜間)	OFF (オフ)
Source (ソース)	HDMI-eARC
BT pairing info (BT ペ어링情報)	Clear (クリア)
AV SYNC (AV 同期)	0
DISPLAY (表示)	ON (オン)
Auto Standby (Auto Power Down) (自動スタンバイ (自動電源オフ))	ON (オン)
Infra-Bass (超低音)	OFF (オフ)

5 製品仕様

注

- 仕様および設計は予告なく変更されることがあります。

Bluetooth / ワイヤレス

Bluetooth プロファイル	A2DP、AVRCP
Bluetooth バージョン	V 5.4
Bluetooth 周波数範囲 / 送信機電力 (EIRP)	2402 ~ 2480MHz < 10dBm
2.4G 無線周波数範囲 / 送信機電力 (EIRP)	2402 ~ 2480MHz < 10dBm

アンプ部

合計	RMS 200 W @THD ≤10% 最大 400W
----	--------------------------------

サウンドバー

電源	100 ~ 240 V ~ 50/60 Hz
消費電力	25 W
スタンバイ時の消費電力	標準スタンバイモード : 0.50 W 未満 ネットワークスタンバイモード : 2.0 W 未満
周波数応答	180Hz ~ 20KHz
スピーカーのインピーダンス	8 Ω x 2
USB ダイレクトバージョン	2.0 フルスピード
USB	5V = 500 mA
寸法 (幅 x 高さ x 奥行き)	601 x 68.5 x 111 mm
重量	1.5 kg
動作温度	0°C ~ 45°C

サブウーファー

電源	100 ~ 240V、 50/60Hz
消費電力	25 W
スタンバイ時の消費電力	< 0.50 W
周波数応答	55 Hz ~ 180 Hz
インピーダンス	4 Ω
寸法 (幅 x 高さ x 奥行き)	186 x 298.6 x 261 mm
重量	3.2 kg
動作温度	0°C ~ 45°C

リモコン

距離 / 角度	6m/30°
電池タイプ	単 4 形 (1.5V x 2)

対応オーディオ形式

HDMI eARC	Dolby Mat、 DTS:X+DTS Virtual:X Dolby Atmos
Optical (光学)	Dolby Mat、 DTS:X+DTS Virtual:X Dolby Digital
Bluetooth	SBC
USB	MP3 / WAV / FLAC

6 トラブルシューティング



警告

- 感電の危険がありますので、本製品のケーシングは絶対に取り外さないでください。

保証の効力を失わないためにも、本製品は絶対に自力で修理しようとししないでください。

本製品を使用していて、故障かな、と思った場合でも、次のような点を確認した上で修理を依頼してください。それでも問題が解決しない場合は、以下でサポートを依頼してください。

www.philips.com/support

メインユニット

メインユニットのボタンが機能しない。

- 電源から数分間電源ケーブルを取り外し、それからもう一度接続します。

電源が入らない

- AC コードが正しく接続されているようにします。
- コンセントは電力が確実に来ているものを選びます。
- リモコンまたはサウンドバーの  ボタンを押して、サウンドバーをオンにします。

サウンド

サウンドバースピーカーから音が出ない。

- サウンドバーのオーディオケーブルをテレビやその他の機器に接続します。ただし、次の場合は、別のオーディオ接続は必要ありません。

- サウンドバーとテレビが HDMI eARC 接続によって接続されている。
- 機器がサウンドバーの HDMI 入力コネクタに接続されている。
- リモコンで、正しいオーディオ入力を選択します。
- サウンドバーがミュートになっていないことを確認します。

サウンドがひずむ、あるいはエコーがかかる。

- オーディオをテレビから本製品で再生する場合は、テレビをミュートにしておきます。

ワイヤレスサブウーファーから音が出ない。

- サブウーファーをメインユニットに手動で接続します。
- 音量を上げます。リモコンまたはサウンドバーの「+」（音量を上げる）を押します。
- いずれかのデジタル入力を使用しているときに音声が出ない場合には、次のようにします。
 - TV 出力を PCM に設定してみる。
 - Blu-ray / その他のソースに直接接続する。
 - 一部のテレビがデジタルオーディオに対応していない。
- テレビが可変オーディオ出力に設定されている可能性があります。オーディオ出力設定が「VARIABLE（可変）」ではなく、「FIXED（固定）」または「STANDARD（標準）」に設定されていることを確認します。詳細については、テレビの取扱説明書を参照してください。
- Bluetooth を使用している場合は、ソース機器で音量が上げられており、ミュートされていないことを確認します。

Bluetooth

機器をサウンドバーに接続できない

- 機器がサウンドバーに必要な互換性のあるプロファイルに対応していません。
- 機器の Bluetooth 機能が有効になっていません。機能を有効にする方法については、機器の取扱説明書を参照してください。
- 機器が正しく接続されていません。機器を正しく接続してください。
- サウンドバーはすでに別の Bluetooth 機器に接続されています。接続されているデバイスを切断してから、再試行してください。

接続された Bluetooth 機器からのオーディオ再生の音質が良くない

- Bluetooth の受信状態が良くありません。機器をサウンドバーの近くに移動させるか、機器とサウンドバーの間に障害物があればそれを取り除きます。

Bluetooth 機器でこのユニットの Bluetooth 名が見つからない。

- Bluetooth 機器で Bluetooth 機能が有効になっていることを確認します。
- ユニットと Bluetooth 機器を再度ペアリングします。

リモコンが機能しない

- 再生コントロールボタンを押す前に、まず正しいソースを選択してください。
- リモコンとユニットの距離をさらに近づけます。
- 図に示すように、電池を正しい極性 (+ / -) にして挿入します。
- 電池を交換します。
- リモコンをユニット前面のセンサーにまっすぐ向けて操作します。

サブウーファーがアイドル状態になっているか、サブウーファーのインジケーターが点灯しない

- 電源ソケットから電源コードを抜き、3 分後にもう一度電源コードを接続して、サブウーファーをリセットします。

7 商標



Adopted Trademarks HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMI トレードドレス、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。



Dolby、Dolby Atmos、および 2 つの D の記号は、Dolby Laboratories Licensing Corporation の登録商標です。

Dolby Laboratories からのライセンスを受けて製造されています。

Confidential unpublished works.

Copyright 2012-2021 Dolby Laboratories、
全著作権所有。



Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、MMD Hong Kong Holding Limited によるこれらの商標の使用はライセンスを受けています。その他の商標および商標名は、それぞれの所有者のものであります。



DTS の特許については、[HTTP://XPERI.COM/DTS-PATENTS/](http://XPERI.COM/DTS-PATENTS/) を参照してください。DTS, INC. およびその関連会社からのライセンスに基づいて製造されています。DTS、DTS:X、DTS:X ロゴ、VIRTUAL:X、および DTS VIRTUAL:X ロゴは、DTS, INC. およびその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

© DTS, INC. およびその関連会社
全著作権所有。



仕様は予告なく変更されることがあります。

最新のアップデートとドキュメントについては、以下を参照してください。
www.philips.com/support

Philips および Philips Shield のエンブレムは Koninklijke Philips N.V. の登録商標であり、ライセンスを受けて使用されています。

本製品は MMD Hong Kong Holding Limited またはその関連会社の責任において製造され、販売されています。MMD Hong Kong Holding Limited は、本製品に関する保証者です。

